事務局提出資料２

各論点に係る参考資料の概要

○　「臨床研修ワーキンググループ論点整理」参考資料（平成２５年２月８日）より、本日の議題に関係した部分について、主な調査結果等の概要をまとめたものである。

１．基本理念と到達目標について

１）基本理念

２）到達目標とその評価

（全体の満足度等）

○　入院患者における研修医への満足度については、入院患者の概ね 90％前後が「とてもよい」「まあまあよい」と回答している。年間新規入院患者数が３０００人以上の病院、６都府県所在の病院において有意に満足度が高い。（参考資料・別添１：P1（出典：患者に対するアンケート調査））

○　研修医における臨床研修の満足度については、５点満点 4.0（大学病院 3.9、臨床研修病院 4.2）であり、１年前の調査に比べ全体的に増加傾向にある。（参考資料・別添４：P7（出典：平成２４年度研修医アンケート調査））

○　指導医における臨床研修の評価については、約半数が臨床研修制度を「概ね良い」と回答した。改善を要する項目として、「研修科目、期間設定」「基本的診療能力を身につけるように見直す」が多く、大病院に偏らず多彩な経験を積むことに重点を置くものと、早く専門研修を開始することに重点を置くものという２つの方向性が見られた。（参考資料・別添１：P2.3（出典：指導医に対するアンケート調査））

（到達目標の達成度等）

○　EPOC データによると、平成 22 年開始の研修医は、平成 20 年開始の研修医と比べ、

・行動目標及び経験目標Ａの達成率に低下は見られなかった

・小児科、産婦人科関連の経験目標の履修率が低下した

・臨床研修病院では、一般外科関連の項目も低下した

・精神科に関連する項目は低下が見られなかった

・大学病院、病床数 601 床以上の病院で満足度が向上した

等の結果が得られた。（参考資料 P11（出典：EPOC を活用した臨床研修の評価に関する研究））

○　「継続プログラム」(7科目必修)と「弾力プログラム」(7科目必修以外)を比較したところ、基本的臨床知識・技術・態度について「自信をもってできる」「できる」と答えた研修医の割合は、98 項目中 12 項目で継続プログラムが有意に高かった。また、経験症例数は、85 項目中 11 項目で継続プログラムが有意に高かった。(参考資料・別添３（出典：初期臨床研修による基本診療能力の習得に関する調査))

(EPOC の利用状況等)

○　EPOC は、全国の約 6 割の研修医が利用しているが、利用していない理由としては、「入力が煩雑」「リアルタイムに入力できない」等がある。(参考資料 P15･16（出典：田中参考人提出資料))

(評価方法)

○　大学病院及び臨床研修病院において、採用している研修医の評価方法は、「指導医による評価」「レポート」「コメディカルによる評価」の順に多く、「口頭試問」「実技試験（ＯＳＣＥ)」「患者による評価」等は少ない。(参考資料・別添２：P2、P5(出典：病院に対するアンケート調査))

○　レポートについて書式を定めている病院は、６０％であった。(参考資料 P6（出典：医師の初期臨床到達目標達成度評価に関する研究))

○　研修プログラムについて、有効と思われる評価方法は、「履修した研修医による評価」「第三者機関による評価」「個々の病院による評価」「ピア・レビュー（相互訪問等)」の順に多い。(参考資料・別添２：P2、P5(出典：病院に対するアンケート調査))

○　米国、英国、仏国の臨床研修制度においては、研修医、指導医、研修プログラムに対する評価が、コンピテンシーを踏まえ多角的に行われており、特に英国はインターネット(e-ポートフォリオ等)の活用が進んでいる。(参考資料 P17～21（出典：大滝委員、武冨参考人提出資料))

３）臨床研修全体の研修期間

○　指導医における最適な研修期間に関する評価は、「２年以上で１年程度必修」が約半数と最も多かった。(参考資料・別添 1：P2.3（出典：指導医に対するアンケート調査))

２．基幹型臨床研修病院の指定基準について

１）研修プログラム

①　研修診療科

（各診療科に対する評価）

○　研修医に「研修を行った各診療科が、基本的な診療能力の習得に役立ったか」と尋ねたところ、全診療科の平均は、５点満点中 4.2 であり、必修科目は、内科系 4.4、救急 4.3、地域医療 4.1、選択必修科目は、外科系 4.2、麻酔科 4.3、小児科 4.1、産婦人科 3.9、精神科 3.8 であった。（参考資料・別添 4：P7（出典：平成２４年度研修医アンケート調査））

○　指導医における必要と考える研修科目については、地域医療、救急、総合診療科、内科の割合が高く、病理科、眼科が低い傾向にあった。（参考資料・別添 1：P2.3（出典：指導医に対するアンケート調査））

（研修前後における将来希望する診療科）

○　平成２４年度に研修を修了した研修医について、研修前後で将来希望する診療科の変化は、内科系、麻酔科、精神科では、研修修了後に希望者の割合がやや増加する傾向にある。外科系、小児科、産婦人科、救急科では、研修修了後に希望者の割合がやや減少する傾向にあるが、３０代医師や全医師数における各診療科の医師の割合と比較すると多い傾向にある。（参考資料 P36～42（出典：平成２４年度研修医アンケート調査・平成２２年医師・歯科医師・薬剤師調査））

○　各診療科を選んだ理由としては、「やりがいがある」「学問的に興味がある」「なんとなく相性が合う」の順に多く、１年前の調査と比べ大きな変化は見られない。（参考資料 P36～42（出典：平成２４年度研修医アンケート調査））

②　各研修診療科の研修期間

（ローテート期間）

○　平成２４年度に研修を修了した研修医について、各診療科の平均ローテート期間は、７科目必修であった１年前と比べ、必修科目である内科（8.0→9.2 月）、救急（1.7→2.6 月）、地域医療（0.9→1.3 月）がやや増加する傾向にあり、選択必修である外科（3.2→2.9 月）、麻酔科（2.1→2.1 月）、小児科（1.8→1.5 月）、産婦人科（1.5→1.2 月）、精神科（1.2→1.1 月）はやや減少する傾向にある。（参考資料・別添 4：P5（出典：平成２４年度研修医アンケート調査））

○　指導医における最低必要と考えられる研修期間の評価は、３か月が最も多く、内科、外科、麻酔科、救急科、総合診療科で期間が長い傾向にあった。（参考資料・別添 1：P2.3（出典：指導医に対するアンケート調査））